平成25年度 富里歴史講座　　於：富里市立図書館　　２０１３・５・１９

# 第1回「旧岩崎久彌末廣別邸」

## ― 別邸建築のなぞに迫る！！ ―

林 田 利 之

### １．現存する久彌の他の別邸

【三養荘】(さんようそう)

三養荘(図１)は、昭和４年（1929)、三菱三代社長の岩崎久彌の別邸として、豊かな温泉に恵まれた伊豆長岡の地に造られました。設計者は田島彌太郎、施工者は山下傳(つたえ)です。４万2000坪の広大な敷地。京都 の庭師・小川治兵衛が手がけた四季の移ろいが美しい日本庭園、瀟洒(しょうしゃ)な数寄屋造(すきやづく)りの和風建築邸が素晴らしいものです。昭和22年からは 旅館として、多くの人々に愛されています。

三養荘の名は、『養生雑訣』(ようじょうざっけつ)の一節に由来する。そこには《思慮を寡(すくな)くして以(も)つて神を養ひ、嗜欲を寡くして以つて 精を養ひ、言語を寡くして以つて気を養ふ》とあります。すなわち、頭で考えるばかりに陥らず、欲望に囚(とら)われず、言葉をより節制することによって、精神 を修養すると説いたものです。

こうした、思慮・嗜欲・言語を節するという考え方は常日頃から、久彌が実践していたことであっり、自身の考え方が『養生雑訣』に明快に示されていたことから、三養荘と名付けたといわれています。

図１　三養荘外観

【聴禽荘】(ちょうきんそう)

叔父の彌之助が興した小岩井農場に対する久彌の想いにはただならぬものがあり、毎年、夏を挟んで７月から10月までを家族で現地に滞在し、技術改良、品質改良に自ら当たりました。こうした経営者としての努力にとどまらず、農場で働く農家の子供の教育にも熱心で、明治27年には私立小岩井小学校(昭和25年公立化・昭和60年廃校)を設立・運営しました。

この小岩井農場内に長期滞在のため、昭和２年に建築されたのが聴禽荘(図２)でした。聴禽荘の敷地には本来、来客用の宿泊施設(後に倶楽部と呼ばれる)や、小さな事務所がありましたが、関東大震災後に移転され、その後に建築されたものです。設計者は当時三菱地所の技士であった津田鑿(さく)であり、施工者は地元盛岡の大工棟梁戸澤勘次郎でした。大正15年10月に上棟式が行われ、完成は翌昭和２年８月でした。木造平家・一部二階建、建築面積は203坪を測る和風の別邸となっています。関東大震災直後に設計・建築された建物という事もあり、耐震に関しては特に留意して作られているのが特徴の別邸です。

図２　聴禽荘外観

### ２．末廣別邸建築のなぞ　その１　建築されたのはいつか？

さて、これら別邸の建築年や、設計者については判明していますが、唯一、末廣別邸に関しては建築年がはっきりとはしていません。

建築年については、晩年の久彌氏の義歯の手入れを任されていた、出羽卓次郎氏の草した「岩崎久彌と千葉県」の中に「大正２年の建築で、設計には久彌自身も携わり、久彌好みの別荘である」と書かれています。これまで、この文章が建築年に触れた唯一のものであることから、大正２年に末廣別邸は建築されたものとなっていました。

ところが、末廣農場長　橘　常喜氏の長女、橘　田鶴子氏の記憶ではこの年に建築され